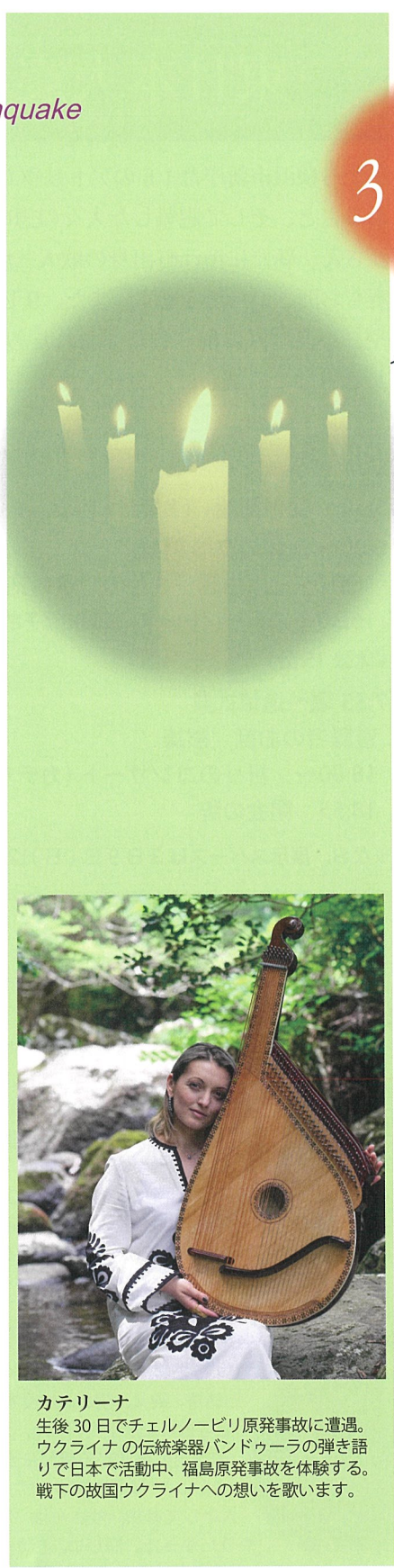


3・10

東日本大震災かながわ追悼の夕べ



カテリーナ
生後30日でチェルノービリ原発事故に遭遇。ウクライナの伝統楽器バンドウラの弾き語りです。日本で活動中、福島原発事故を体験する。戦下の故国ウクライナへの想いを歌います。

なんと非情な仕打ちか。過酷な試練はどこまでつづくのか…

いまなお、地震と豪雨被害に苦しむ能登半島の皆さん、

戦禍に逃げまどうウクライナやガザの人々の姿を思いつつ、

14回目の3月11日を迎えます。

大地震と津波、福島第一原発の核事故による傷も未だ癒えず、

ふるさとを奪われ、人生を破壊され、

懸命に生きる3万人あまりの避難者たちがいます。

子どもたちの放射線被害に心を痛め続けるお母さんたちがいます。

事故を起こした国の責任を認めほしいと裁判で訴え続ける人々がいます。

人類が営々と積み重ねてきた知恵と財産。

それを一部の権力者が力でねじ伏せようとし、

バランスを失った自然も追い打ちをかける。

そんなときだからこそ、人々の抱える痛みを思い、

ひととき、共に祈りましょう。

それが、希望を照らす灯であることを信じて…



2025年 3月10日(月) 参加無料

● 横浜市役所 1F アトリウム キャンドルステージ

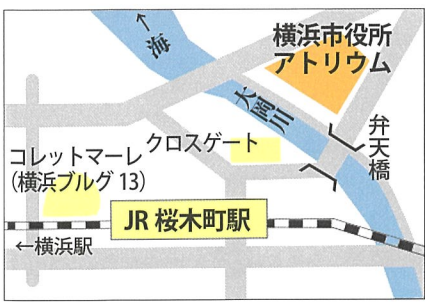
15:30 受付開始 / キャンドル点灯 (約千本のキャンドル灯火)

追悼の夕べ ▶ 16:00 開会 / 被災地からの映像 / ステージトーク / 詩や短歌の朗読・避難者のお話 / 黙祷 / 祈りの歌 ~ 19:00 頃終了

3.10 追悼展 ▶ 3月9日(日)12:00~11日(火) アトリウム 1F 展示スペース

「おれたちの伝承館から」中筋 純 (写真) 青田 恵子 (詩・布絵)、三原 由紀子 (短歌)

「福島原発かながわ訴訟原告団から」避難者たちの権利回復への闘いの軌跡



みなとみらい線「馬車道駅」1C 出入口直結
JR・市営地下鉄「桜木町駅」徒歩5分

主催 / 3・10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ実行委員会

構成団体: 「避難の権利」を求める全国避難者の会・かながわ、同サポーターズ、福島原発被害者支援かながわ弁護団

● 後援 (順不同) / 神奈川県、福島県、岩手県、宮城県、横浜市、小田原市、川崎市、平塚市、藤沢市、横須賀市、神奈川県弁護士会、神奈川県司法書士会、神奈川新聞社、東京新聞横浜支局、毎日新聞社横浜支局、t v k、fm yokohama 847、マリン FM

- 連絡先 TEL:045-662-7126 (馬車道法律事務所/黒澤) E-mail: sirogane999@gmail.com
- 寄付振込先 リそな銀行 横浜支店 普通口座 口座番号 1735509
名義 / 3.10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ実行委員会 黒澤知弘 (くろさわともひろ)
- 郵便振替 口座番号 00260-1-87578 名義: 「3.10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ」実行委員会

東日本大震災かながわ追悼の夕べ 2025

昨年から横浜市新庁舎 1F のアトリウムで開催している 3.10 追悼の夕べ。原発事故で奪われた鳥獣草木や人々のいのち、ふるさと、そして避難した人々の思いに寄り添う場を作り続けてきました。今年は、昨年に引き続き津島地区の三瓶春江さん、新たに浪江町出身の歌人三原由起子さんが参加。毎年駆けつけてくれているウクライナの歌姫カテリーナの演奏もお聞きいただけます。また、9 日～11 日まで設営されている展示スペースでは、この 14 年間を振り返る資料展示や、小高地区に創られた「おれたちの伝承館」館長で写真家の中筋純さんの作品の展示もあります。お時間、お志のある方はこの機会に、是非、横浜市新市庁舎までご参集ください。

【進行予定】

15:30～受付開始（名簿記入の後、キャンドル配布／キャンドル配置）

16:00～追悼の夕べ開始

16:07～三原由起子さんの短歌朗誦

16:30～ステージトーク（三原由起子さん、三瓶春江さん、村田弘さん、黒澤知弘さん）

《休憩 15 分》

17:35 頃～追悼式典

避難者のお話／黙祷

18:00～祈りのコンサート（カテリーナ）

18:55 閉会の辞

※なお、展示スペースは 3 日 9 日（日）12:00～11 日（火）18:30 まで開催しています。



昨年のキャンドルステージで歌うカテリーナ

●出演者

三原 由起子さん（歌人）

1979 年福島双葉郡浪江町生まれ。中学時代の恩師の勧めで作歌をはじめ。2011 年の東日本大震災による原発事故をはさんで、高校時代からの 17 年間に作りためた歌を、第 1 歌集『ふるさとは赤（本阿弥書店 2013 年）』で発表。福島県文学賞青少年奨励賞、第 1 回全国高校詩歌コンクール短歌部門優秀賞を受賞。2001 年には第 44 回短歌研究新人賞候補にも選ばれる。現代歌人協会会員、日本歌人クラブ参与。近著に『土地に呼ばれる（2022 年）』がある。



三瓶 春江さん（ふるさとを返せ！津島訴訟原告）



津島の開拓農家育ちで 24 歳の時、南津島の三瓶章陸さんと結婚。義父、陸さんは役場職員で「津島の生き字引」と呼ばれた郷土史研究者。歴史書や古書を調べ、津島の歴史に精通する義父に畏敬の念を抱いていた春江さんは、「津島原発訴訟団」が結成されると役員の一員として参加。陸さんは「20 歳ほど若ければ、俺がやりたかった。悔しい。だから春江、俺の分までがんばれ！」と春江さんの背中を押してくれたという。

カテリーナ（歌、バンドウーラ）

生後直ぐにチェルノービリ原発事故に遭遇。22 才から日本で活動するようになり、一児の母として福島原発事故を経験する。戦禍にある故国ウクライナの人々に、コンサート収益金で支援物資を送りながら全国で動いている。追悼の夕べでは初期からウクライナの民俗弦楽器バンドウーラを弾きながら祈りの歌を捧げてくれている。著書に『ウクライナ女性の美しく前向きな生き方』『カテリーナの伝えたい 5 つのこと』『戦争が始まって 2 年—あなたは 2 月 24 日を覚えてますか？—ふるさはウクライナ（絵本）』など。



追悼の夕べにつらなる人々

●3・10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ実行委員会

「避難の権利」を求める全国避難者の会・かながわ、同サポーターズ、福島原発被害者支援かながわ弁護団

●賛同団体（50 音順）

一般社団法人 神奈川人権センター／いのち・神奈川（福島の子供達の保養団体ネットワーク）/NPO 法人寿クリーンセンター／NPO 法人さんわーくかぐや／NPO 法人かながわ避難者と共にあゆむ会／核戦争防止神奈川県医師の会／神奈川県保険医協会／公益財団法人横浜 YMC A／公益財団法人横浜 YWC A／寿越冬実行委員会／寿炊き出しの会／社会福祉法人翔の会／週刊金曜日を応援する会・神奈川／生活クラブ生活協同組合・神奈川／脱原発市民会議かながわ／チームみつばち／日本基督教団神奈川教区／日本基督教団神奈川教区／寿地区センター／認定 NPO 法人 WE21 ジャパン／認定 NPO 法人 WE21 ジャパン・こうほく／福島原発かながわ訴訟原告団／福島原発かながわ訴訟を支援する会／福島子ども・こらっせ神奈川／ぶんぶんトークの会／八峰村／勇氣野菜プロジェクト

●後援（順不同）

神奈川県、福島県、岩手県、宮城県、横浜市、小田原市、川崎市、平塚市、藤沢市、横須賀市、神奈川県弁護士会、神奈川県司法書士会、神奈川新聞社、東京新聞横浜支局、毎日新聞社横浜支局、t v k、 Fm yokohama 84.7、マリン FM